

様式 1

県立水戸第二高等学校【総合的な探究の時間計画】（令和8年度）

学校の教育目標

民主的な国家及び社会の形成者にふさわしい資質・能力を身に付け、社会の中核として活躍する、心豊かな人間の育成。

総合的な探究の時間の評価

目標と育成する資質・能力	学習評価	配慮を必要とする生徒への支援方法
道徳的価値及びそれに基づいた人間としての在り方・生き方に関する自覚を深め道徳性を高めるとともに、探究の見方・考え方を働かせ、人物や環境問題等の社会的課題、興味関心の高い事柄に関する探究学習を行うことをとおして、自己の在り方を考えながら、よりよく課題を発見し、解決していくための資質・能力を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> 個人内評価（人間としての在り方・生き方等）。 パワーポイントやポスターによるグループ発表におけるグループ内評価またはクラス発表でのクラス内評価。 ポスターセッションによる校内発表での校内評価。 レポート等を用いた主体的活動の実践の総合評価。 	テーマは今後の探究の見通しを立てながら設定するようアドバイスする。

各学年における主な取組内容

「総合的な探究の時間」を課題研究等で代替している場合の科目名（2・3年SSコース：理数探究）

学年	主たる探究課題及び学習活動	外部との連携	育成を目指す生徒像
1年 (探究Ⅰ)	人間としての在り方・生き方と関連性のある社会的課題等の探究 <ul style="list-style-type: none"> 副担任が図書部と連携して指導する。 探究テキスト（本校オリジナルテキスト「STARTプログラム」）を活用する。 人間の在り方・生き方を考えさせるとともに、関連性のある社会的課題など広い範囲の中から興味関心のあるテーマを設定し、探究活動を行う。 パワーポイントによるクラス内発表、1、2年生全員によるポスターセッションを行い、相互評価を行う。 必要に応じて資料収集(参照できる資料)の方法、発表時のマナーについて指導する。 	ゲストティーチャーの活用 <ul style="list-style-type: none"> 道徳講演会 探究活動の進め方 情報リテラシー概論 	<ul style="list-style-type: none"> 人間としての在り方・生き方と自分との関わり、また、自己の在り方、生き方に目を向けて関連性のある課題を見出すことができる。 テーマを設定し、目的に応じた手段で情報を収集する。適切な方法で情報を蓄積し、分析し取捨選択する。収集した情報をもとに、自らの考えを論理的に表現することができる。 目標を持って問題の解決に向け、主体的に探究活動に取り組む。探究活動をとおして、自己のキャリアや社会問題の解決に取り組むことができる。
2年 (探究Ⅱ)	興味関心の高い事柄から問いを見出すことからの班別探究 <ul style="list-style-type: none"> 全教員で指導する。 探究テキスト(本校オリジナルテキスト『探究力』を伸ばす課題研究の進め方)を活用する。 興味関心の高い事柄について調べ、そこから問いを見出し、自らが主体的に取り組み、課題解決に向けて探究する。 パワーポイントやポスターによるクラス内発表またはグループ内発表、1、2年生全員によるポスターセッションを行い、相互評価を行う。 	各種団体との連携 大学・研究機関との連携	<ul style="list-style-type: none"> 興味関心の高い事柄についての課題を、各教科で学んだ内容や教科の特質に応じた見方・考え方を働かせながら見出すことができる。 テーマを設定し、目的に応じた手段で情報を収集する。適切な方法で情報を蓄積し、分析し取捨選択する。収集した情報をもとに、自らの考えを論理的に表現することができる。 探究によって発見した課題を自分事として捉え行動し、自ら積極的に社会に参画しようという意識や態度を身に付ける。
3年 (探究Ⅲ)	これまでの学びを形にして自己の進路を主体的に選択 <ul style="list-style-type: none"> 担任、SSH担当教員、各教科担当が中心となり指導する。 進路講演会などをおして社会的課題について考え、自らの考えをレポートにまとめる。 パワーポイントによる発表を行い、相互評価を行う。 	各種団体との連携 大学・研究機関との連携	<ul style="list-style-type: none"> 研究者や社会人の専門分野に関する講演を聞き、科学や社会的課題に対する興味・関心を高めるとともに、持続可能な社会を実現するための行動の仕方を考えることができる。 これまでの探究活動をもとに様々な社会的課題と自己との関わり合いを考え、自己の進路を主体的に選択する意識や態度を身に付ける。 今までの探究の成果をまとめ、発表することで、研究内容に対する理解をより深めるとともに、自らの研究の意義や価値を理解することができる。